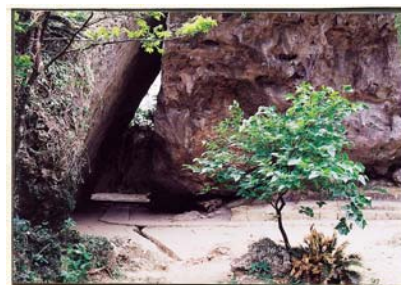


5-2 地域の文化に根ざした人と自然との共生の事例

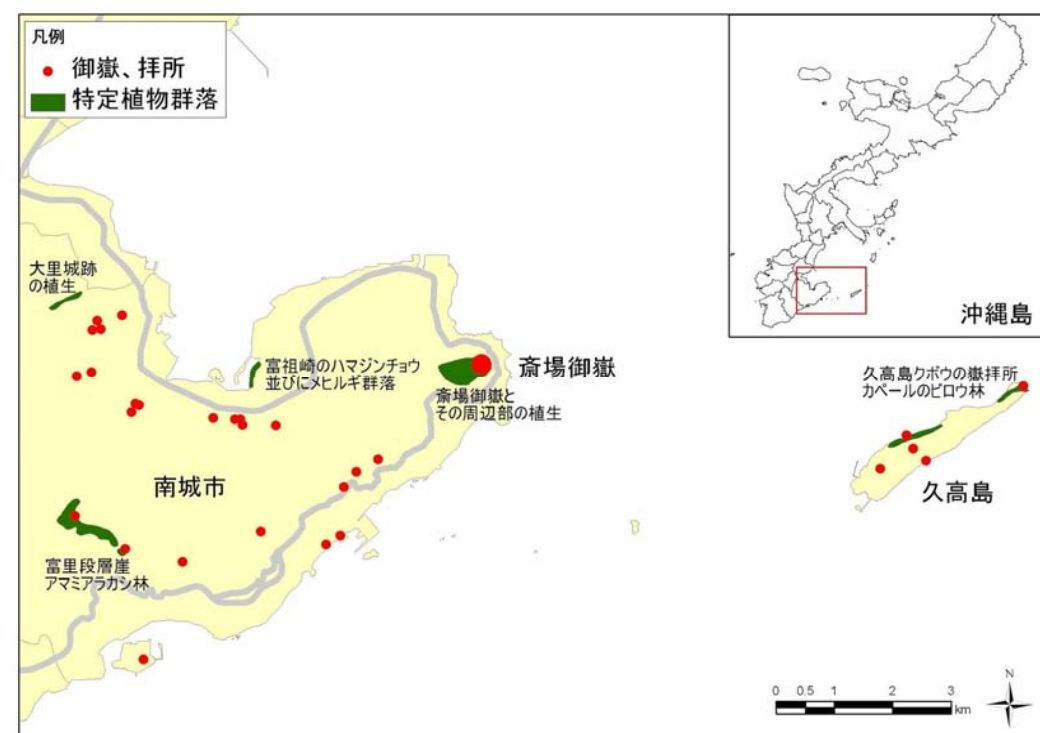
- 「鎮守の森」のように、地域の文化に根ざして大切にされ、維持されてきた自然環境は、地域文化にとっても、また生物多様性を維持する観点からも重要。
- 近年、地域固有の自然や文化を再評価し、地域づくりのための資源として役立てていく動きがある。

1. 琉球王国最高の聖地、斎場御嶽（せいふあーうたき）

- ・ 沖縄県南條市（旧知念村）にある史跡。
- ・ 琉球が統一国家へ向けて動き始めた14世紀後半から王国が確立した後の18世紀末にかけて建設。
- ・ 御嶽内の森林は沖縄島南部における最も豊かな森林の一つ。
- ・ 植生
 - ー 亜高木層：ヤブニッケイ、ハマイヌビワ、クロヨナなど
 - ー 低木層：シマヤマヒハツ、グミモドキなど
- ・ 斎場御嶽は、琉球民族の祖といわれる〈アマミキヨ族〉が渡来、定住したと伝えられる知念・玉城の聖地を巡拝する神拝の行事である「東御廻り」（アガリウマーイ）の参拝地として、現在も多くの人々から崇拝されている。
- ・ 史跡名勝天然記念物（1972年5月指定）
- ・ 世界文化遺産（2000年12月）：他の8か所とともに「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として登録。
- ・ その他、国指定史跡、沖縄県指定名勝。



出典：南城市公式ホームページ
<http://www.city.nanjo.okinawa.jp/2/1812.html>



斎場御嶽周辺（旧知念村、旧佐敷町、旧玉城村）の御嶽、拝所の位置及び特定植物群落

注：琉球国由来記（首里王府編 1713年成立）によれば、御嶽は905箇所とされている。

出典：沖縄県教育委員会，1980，沖縄県社寺・御嶽林調査報告Ⅲ．，沖縄県教育委員会，1981，沖縄県社寺・御嶽林調査報告Ⅳ．自然環境保全基礎調査 第2・3・5回特定植物群落調査（昭和53年～平成10年、環境省）

2. 下鴨神社の社寺林、糺（ただす）の森

- ・ 京都市の下鴨神社本殿から南方の河合神社に至る境内の12ヘクタールに及ぶ鎮守の森。京都の文化財、世界文化遺産（1994年指定）。
- ・ 賀茂川と高野川の合流点に位置し、ムクノキ、エノキ、ケヤキなどのニレ科の落葉広葉樹を中心に、約40種の樹木が生育。
- ・ 樹齢500年ともいわれるイチヨウの古木には乳房状のコブが見られ、母乳の出がよくなるのを願い参拝者が絶えなかったと伝えられている。
- ・ 糺の森は都市緑化のモデルケースとしても注目されている（京都市梅小路公園内の復元型ビオトープ「いのちの森」プロジェクト）。

下鴨神社・糺の森の主な祭事	
蹴鞠始め	正月4日午後2時。
御蔭祭	5月12日。比叡山西麓の御蔭神社から葵祭の神霊を迎える神事。
葵祭	5月15日。京都三大祭りのひとつ。
御手洗祭	7月、土用の丑の日。糺の森内の御手洗川に足をひたし、1年の無病息災を祈る祭り。



出典：京都府ウェブサイト 京都の自然200選
<http://www.pref.kyoto.jp/select200/historical25.html>

3. にのへの宝～地域固有の文化の蓄積を生かしたまちづくり～

- ・ 岩手県二戸市では、地域固有の自然、歴史、文化を宝とし、平成4年より、「宝を生かしたまちづくり推進委員会」を置き、地域文化の見直しと活用に基づく「宝を生かしたまちづくり事業」を展開。
- ・ 9地区10ゾーンに区画分けし、各地区の特色に合わせたまちづくりを行っている。

<二戸市の地域文化に基づき保全・活用されている自然の例>



にのへの宝	概要
八の太郎の足跡（野々上字落合）	八の太郎が十和田から逃げて来るとき残した足跡と言い伝えられる窪地。
釜沢用水	天正年間(1573-1591)、領民のために開田を目的として領主の小笠原伊勢守信浄がつくったといわれる。現在も水田に利用されている。
釜沢字川原の傘松	アカマツの老木。神が宿るとの言い伝えにより、切り払われることなく守られている。
折爪岳の湧水	日照りが続くとき雨ごいの神様である権現様（山居大権現）を投げ込んで祈願したとされる。
蛇沼牧場 上斗米字上野	明治10年（1877）より蛇沼政恒翁が近代的な牧羊業を始めた場所。

出典：にのへの宝ウェブページ
<http://www.city.ninohe.iwate.jp/takara/takara.html>